BUDŌ NEWS

今月のニュース

特集

サウジアラビア王国派遣日本武道代表団

13日・武道演武会

両国の友好親善に寄与

日本・サウジアラビア王国外交関係樹立60周年記念

平成27年度 サウジアラビア王国派遣 日本武道代表団

サウジアラビア王国派遣日本武道代表団（団長＝高村正彦武道議員連盟会長、主催＝日本武道館・日本武道協議会、後援＝文部科学省・外務省）は、現代武道9団体、古武道3流派の71名の団員で組織され、11月10日～16日、サウジアラビア王国リヤド市に派遣された。現地では、「武道演武会」、「交流稽古会」、「武道体験教室」などを行った。

本事業は、日本・サウジアラビア王国外交関係樹立60周年記念事業のメイン事業として実施された。

■今回の日本武道代表団の特色

イスラムの教義で、裸体と女性について制約があり、まわしのみ着装して競技する相撲の演武を断念。また、公の場での女性団員の参加が不可能であるため、全員が男性という異例の団員編成となった。

出来るだけ色々な世代に観覧させたいとの現地の要望で、青年の世代（大学生）、少年の世代（小・中学生）、その他成人世代と、それぞれ計3回の演武会を開催した。

11/ 9 結団式・壮行会

10日の出発が早朝であったため、団員は全員が前泊。宿舎の成田・日航ホテルにて、松永光日本武道館会長、臼井日出男日本武道館理事長、各武道団体代表者が出席して、9日夕刻、結団式・壮行会が行われた。

松永会長は、「日本の素晴らしさ、武道の素晴らしさを、サウジアラビア王国の国民にしっかりと伝えていただきたい」と壮行の言葉を述べた。次に、団長の高村正彦武道議員連盟会長が「日本武道の真髄を示していただきたい」と団員を激励した。

臼井理事長による乾杯

11/10 リヤド到着

日本武道代表団は、香港経由でサウジアラビア王国・リヤド市に向け、日本を発った。

現地時間21時過ぎに、サウジアラビア王国・リヤド市にあるキング・ハーリド国際空港に到着。一行を在サウジアラビア日本大使館ほか現地関係者が出迎えた。その後、宿泊先のリヤド市内にあるマリオット・ホテルへ移動し、団員たちは、翌日からの日程に備えた。

11/11 午前 青年福祉庁表敬訪問

高村団長はじめ各道代表者は、サウジアラビア王国青年福祉庁を表敬訪問。アブドッラー・ビン・ムサーイド・ビン・アブドルアジーズ・アール・サウード青年福祉庁長官は、「高村団長と武道団一行をサウジアラビアに歓迎でき、大変喜ばしい。日本は重要な国。私的に日本を訪問したが大変感銘を受けた。また、サウジアラビアは、2020年オリンピックの東京開催を支持してきた。東京に決まったことを嬉しく思う」と歓迎の言葉が述べられた。

続いて、高村団長は、「自分は、外務大臣や政府特使としてサウジアラビアに5回訪問している。当時のアブドッラー皇太子及びサウード外相等と、中東和平等について有意義な意見交換をさせていただいた。サウジアラビアは日本にとっても最も重要な国の一つであり、今般、日本武道団の団長として11年ぶりに貴国を訪問できたことを大変うれしく思う。団員一同、精一杯の演武を披露させていただく」と力強く挨拶。

アブドッラー長官は、「日本の武道は、数百年の歴史を持ち、是非、学びたい」と発言。高村団長はこれに対し、「武道は、健全な青年を育てることに資する。そして、健全な青年を育成すれば良い国が出来る」と応じた。

高村団長は、今回の訪問に際し、サウジアラビア王国青年福祉庁のご尽力に感謝の言葉を述べ、同長官に訪問の記念として「兜」を贈呈。これに対し、同長官より、サウジアラビア王国伝統の「剣」が手渡された。

高村団長ほか、各道代表者と
アブドッラー長官ほか、青年福祉庁幹部による記念撮影

高村団長とアブドッラー長官の対談

11/11
午後

「武道演武会」キング・ファハド・セキリティ・カレッジ

空手道

なぎなた

開会式

柳生心眼流甲冑兵法

キング・ファハド・セキリティ・カレッジの大講堂に、在学生2千名を集め、「武道演武会」を開催。

初めに、当地で催事が行われる際に慣例のコーランをカレッジ側が朗読、続いて、在学生による両国国歌の吹奏が行われた。

開会式では、カレッジを代表して、ハーリド・ザイド・アル・ハムダーンスポーツ事項局長が歓迎の挨拶。続いて、高村団長が、「日本の伝統文化である武道の真髄を披露いたします。ぜひ、皆様に日本武道の心と技を肌で感じとっていただきたい」と挨拶した。同カレッジはサウジ内務省傘下の治安関係者を養成する訓練大学であり、入学は大学を卒業した者に限られている。その在学生2千名が観覧。静寂の中、日本武道代表団の演武に真剣な眼差しを注ぎ、演武が終わると演武者に大きな拍手が送られた。閉会セレモニーでは、アサード・ビン・アブドッラー・アル・フライウィ学長からお礼の挨拶。高村団長と在サウジアラビア奥田紀宏日本大使に記念の盾が贈呈され、高村団長からは返礼品が同学長に手渡された。

11/11
夕刻

「お披露目パーティー」

マリオット・ホテルにて日本武道代表団主催による「お披露目パーティー」を開催。パーティーには、日本武道代表団の招聘に尽力された、サウジアラビア王国空手協会イブラーヒーム・ビン・ムハンマド・アル・ガンナース会長、同国柔道協会ムアンマル・アル・ムアンマル事務局長ほか、現地関係者と、現地で協力いただいている奥田紀宏日本大使ほか、総勢100名近くの関係者が出席し、盛大にお披露目パーティーが行われた。

高村正彦団長が挨拶に立ち、「貴サウジアラビア王国と日本は、外交関係を樹立して本年で60周年を迎えました。この記念すべき年に、今回、サウジアラビア王国青年福祉庁、サウジアラビア空手協会より招聘を受け、日本の伝統文化である武道を紹介する機会を得ましたことは、誠に喜ばしく、意義深いことであると思います」と挨拶。乾杯は、団員を代表して空手道・前田利明氏の発声で行われ、関係者の懇談が行われた。

11/12

「武道演武会」
アル・タルビア・アル・ナムーザジーヤ・スクール

アル・タルビア・アル・ナムーザジーヤ・スクールにおいて実施した「武道演武会」では、在校生の小・中学生600名が体育館に集合した。

開会式では、コーランの朗読に続いて、イブラヒム・アル・ディラ校長が歓迎の挨拶。続いて高村団長は、「日本では、武道を学校教育・体育の授業に取り入れており、武道を通じて心身ともに逞しい立派な人間を育てようと努めております。のちほど、武道を体験するコーナーを設けておりますので、武道体験を楽しんでいただきたい」と挨拶した。

観覧している生徒からは、演武者の技が決まると「ウォー」という驚きの声が上がり、また、後半の武道体験では、初めて体験する武道に子供たちは笑顔で積極的にチャレンジしていた。

少林寺拳法

高村団長の挨拶

弓道

武道体験・琉球古武術

武道体験・剣道

演武会場となった
アル・タルビア・アル・ナムーザジーヤ・スクール

演武会に集まった在校生たち

銃剣道

柔道

少林寺拳法

合気道

剣道

為我流派勝新流柔術

銃剣道

約3000名が観覧

11/13

「武道演武会&ワークショップ」オリンピック・コンプレックス

本事業のメインイベントである「武道演武会&ワークショップ」はプリンス・ファイサル・ビン・ファド・オリンピック・コンプレックス（収容人員5千名）において開催、空手道・柔道関係者と一般の観客、延べ約3千名が観覧した。

両国国歌吹奏の後、アブドッラー・ビン・ムサーイド・ビン・アブドルアジーズ・アール・サウード青年福祉庁長官が歓迎の挨拶。続いて、高村団長が「貴サウジアラビア王国と日本の外交関係樹立60周年の記念すべき年に、サウジアラビア王国リヤド市において、日本武道代表団が日本の伝統文化である武道の真髄を披露できますことは、大変意義深く、喜ばしく思います。貴国と日本国との交流は、1955年に正式に外交関係が樹立された時から本格的に始まり、以来、親しい国同士として経済交流はもとより、柔道、空手道を始めとする武道を通じた文化的、人的交流など両国の文化交流の面においても友好関係を築き上げて

弓道

空手道

なぎなた

琉球古武術

為我流派勝新流柔術

柳生心眼流甲冑兵法

左からアブドッラー長官、高村団長、
奥田大使、高村団長秘書

空手道

少林寺拳法

参りました。今後も両国の信頼関係構築と互恵的協力関係はいっそう重要性を増していくことを強く確信しているところであります。一連の交流事業の中心行事として、日本武道代表団のサウジアラビア王国訪問が両国の新たな扉を開くきっかけになることを心より期待しております」と挨拶。

始めに、日本武道団の演武が行われ、演武者の豪快な技に、観客から歓声が上がり、大きな拍手が送られた。空手道演武の後、地元で空手を愛好する少年たちの演武が披露され、会場を盛り上げた。

ワークショップでは、観客がアリーナ面に降り、各武道の団員から指導を受け、武道の体験を楽しむ光景が会場全体に広がった。参加した少年は、「日本の武道を初めて見た。とても楽しかった」と感想を語った。

なお、高村団長は貴賓室で、当地国営放送チャンネル2が制作中の、「日本・サウジ外交関係樹立60周年番組」によるインタビュー取材を受け、「60周年に際しての祝賀メッセージ並びに日本武道代表団の演武大会開催の意義等」について述べた。

11/13 夕刻

打ち上げパーティー

演武会終了後、本事業の招聘元であるサウジアラビア王国空手協会主催の「打ち上げパーティー」が、オリンピック・コンプレックス内の付属施設で行われた。団員たちは安堵した様子で、互いの労を犒った。

11/14

「交流稽古会」

現地にある武道団体との「交流稽古会」は、合気道の現地愛好者70名が参加し、行われた。合気道・小谷佑一団員は、「現地の方々との交流稽古ができ、参加者に喜んでいただけました。とても貴重な時間を過ごせました」と感想を語った。

合気道の交流稽古会

11/14 夕刻

解団式

団員の労を犒う高村団長

宿泊先のマリオット・ホテルにおいて日本大使館関係者を交えて解団式が行われた。高村団長より、「サウジアラビア王国にも、世界の国々にも、それぞれが誇る素晴らしい伝統文化があります。真の国際交流は、自国の文化を誇りとしながら、お互いの文化を認め合い、尊重し、敬意を払うことから始まると考えます。皆さんの演武は、サウジアラビア国民の魂を揺さぶった」など団員へ謝辞が述べられた。日本大使館・高橋公使から慰労の言葉が、各道団員の代表者からは感想が述べられ、解団式は終了した。

11/15

「武道体験教室」リヤド日本人学校

サウジアラビア王国訪問に伴い、リヤド日本人学校の生徒を対象にした「武道体験教室」を開いた。この「武道体験教室」は、日本の伝統文化である「武道」を理解してもらう目的で実施している。

講師は、相撲・倉園一雄、剣道・佐藤征夫の両団員。武道の所作をテーマにした体験授業を行った。

相撲の授業では、蹲踞（そんきょ）、塵浄水（ちりちょうず）、腰割り、四股（しこ）、運び足等の基本動作を説明し、実際に生徒たちがその動作を体験。質疑応答では、子供たちから「お相撲さんは体が大きいですが一日食事は何回しますか」「相撲はいつから始まったのか」など、倉園団員に率直な疑問が寄せられた。

剣道の授業では、立礼と座礼、座り方と立ち方等、竹刀を持って基本動作等を体験、生徒たちは「楽しかった」「日本の武道が少し判った」等の感想を元気に語ってくれた。

最後に、返礼として在校生徒全員で統率のとれた太鼓の演技を披露。ともに有意義な時間となった。

武道体験教室・剣道

武道体験教室・相撲

11/15
夕刻

奥田日本大使による「慰労パーティー」

最終日となる15日夕刻に、在サウジアラビア奥田紀宏日本大使による「慰労パーティー」が、大使公邸で行われた。

挨拶する奥田日本大使

慰労パーティーの様子

冒頭、奥田大使は「代表団の皆様、お疲れ様でした。日本・サウジアラビア王国外交関係樹立60周年記念事業、その主要事業として実施しました、武道演武会等の一連の活動は、とても有意義なイベントで両国の友好親善に多大な成果をもたらしました」と慰労の言葉と今回の成果について話された。

団員たちは、サウジアラビアの最後の夜に別れを惜しんだ。

11/16

日本へ帰国

代表団一行は、両国の友好親善に寄与した充実感を持ち、キング・ハーリド国際空港から出国。香港経由で全員無事に日本・成田に帰国した。

砂漠を視察する団員たち

◎派遣団員名簿　※敬称略

◇団長
高村正彦（武道議員連盟会長）

◇団長秘書
高村治子

◇コーディネーター
鳥海又五郎、奈藏稔久

◇文部科学省
市川清治

◇外務省
足立孝治

◇警視庁
松田卓也

◇日本武道館プロジェクト
境野清、畑俊和、今寺直人

◇柔道
中谷雄英（九段）、春日俊（七段）、岡田弘隆（八段）、眞喜志慶治（七段）、髙橋寿正（段五）、齋藤涼（四段）、北原隆文（参段）

◇剣道
佐藤征夫（七段）、山根博幸（教士八段）、小郷洋之（教士八段）、音川勝（教士七段）、近藤敏朗（教士七段）、川端和光（七段）

◇弓道
橋本眞也（範士八段）、倉元幸一郎（教士八段）、坂本武彦（教士八段）、及川好布（教士八段）、土佐正明（教士八段）、戸部孝仁（弐段）

◇相撲
倉園一雄（七段）

◇空手道
前田利明（教士公認八段）、渡邉純一（錬士公認七段）、若杉秀樹（錬士公認六段）、佐藤秀喜（錬士公認六段）、山口貴史（公認五段）、牧田拓也（公認参段）、在本幸司（参段）

◇合気道
小林幸光（七段）、小谷佑一（五段）、里舘潤（参段）、岡崎遼（参段）、平野潤（参段）飯澤諒（初段）

◇少林寺拳法
長田正紀（大範士八段）、迎田展孝（正範士七段）、佐々木政人（正範士七段）、実原史明（准範士六段）、冨田雅志（大拳士五段）、小林博紀（正拳士四段）

◇なぎなた
笠原松美（教士）、吉田洋孝（錬士）、久光重宏（四段）、瑞慶山良作（四段）

◇銃剣道
渡邉正一（教士八段）、渡邊清吉（教士八段）、鈴木利広（教士七段）、髙橋克徳（錬士六段）、今野真也（錬士六段）、江良将人（錬士六段）

◇為我流派勝新流柔術
根本憲一唯之（宗家十三代）、谷啓二（師範）、村木浩治（師範代）、沢幡伸男（師範代）

◇琉球古武術
井上貴勝（免許皆伝範士）、大川昌春（師範七段）、岡林俊雄（師範七段）

◇柳生心眼流甲冑兵法
星國雄（総本部長）、豊田猛（師範）、二階堂敏朗（一般用皆伝）、小原良太

◇記録
後閑信弥（㈱クエスト）

団長以下総勢71名

天皇杯第64回全日本相撲選手権大会

トゥルボルド 外国人初のアマ横綱に

優勝＝バーサンスレン・トゥルボルド選手（日本大３年）

第64回全日本相撲選手権大会（主催＝日本相撲連盟）は12月6日、東京・両国の国技館で開催され、アマチュア横綱を目指す精鋭が全国から集結。大会では過去1年間に開催された各大会での成績に対して与えられるポイントの合計数が多かった社会人、大学生、高校生など総勢64名が出場した。

大会は日本大学3年生のバーサンスレン・トゥルボルドが、決勝で昨年準優勝の黒川宗一郎を小手投げで降して、初の天皇杯を手にした。

本大会に出場した64名で4人一組のリーグ戦を行い、3試合で2勝以上を挙げた37名が決勝トーナメントに進出。昨年優勝の大道久司（現・御嶽海）は角界入りしたため、出場せず。また、2015年から全日本実業団選手権、国体成年の部、本大会でベスト8以上の選手に大相撲の三段目最下位格付出しの資格が与えられるようになった。

■決勝トーナメント序盤戦

東日本実業団選手権覇者の中出雄真（東洋大職員）は2回戦で村松裕介（日本体育大）を押し倒しで退け、梅崎恭輔（福岡）を寄り切って準々決勝進出を決めた。

今年の全国学生個人体重別大会135kg以上級優勝の石橋広暉（近畿大）は3回戦で対戦した矢後太規（中央大）の圧力を受け止め、落ち着いて掬い投げで破り、準々決勝進出。

前々回の本大会で3位に入賞しているバーサンスレン・トゥルボルド（日本大）は、2回戦で工藤豪人（福島）を約4分の大熱戦の末に寄り切りで破ると、3回戦で対戦した前回3位の宮下治也（拓殖大）も寄り切りで降し、ベスト8に残った。

世界選手権大会個人重量級優勝の小柳亮太（東京農業大）は3回戦で全国学生大会準優勝の池川勇気（日本大）と対戦。立合いで池川に搗ち上げられるが、即座に左を差し、粘り強く寄り切って、勝ち上がりを決めた。

国体、世界選手権無差別級で優勝して波に乗っている黒川宗一郎（アイシン軽金属）は2回戦で松永昭久（東京）を突き出し、3回戦で木﨑信志（日本大）を力強く寄り切り、順当に準々決勝に進んだ。

本大会初出場の吉本雄斗（中央大）は1回戦で村山大洋（新潟）を叩き込み、玉木一嗣磨（近畿大）を突き落としで破りベスト8進出。

5年前に準優勝した荒木関賢悟（東洋大職員）は、3回戦で中村優太（山口）を勢い良く押し出し、4年ぶりにベスト8に残った。

今年の学生横綱の黒川宏次朗（拓殖大）は、3回戦で前に圧力をかける一ノ瀬康平（福岡）をいなして、上手投げで降して8強入り。

また、今大会唯一の高校生出場者の城山聖羅（金沢市立工業高）は、決勝トーナメントに残る健闘を見せたが、2回戦で玉木一嗣磨に叩き込みで敗れて姿を消した。

２回戦＝玉木（奥）対城山

２回戦＝黒川（奥）対松永

３回戦＝トゥルボルド（左）対宮下

■準々決勝

石橋広暉　○寄り切り　中出雄真

石橋が立合いから右を差し、左上手を取ると、そのまま一気に寄り切り、石橋が初のベスト4に進出。

トゥルボルド　○押し倒し　小柳亮太

立合いから互いに激しく突き合う形となるが、両者怯まず、見合って膠着状態に。ここで先に動いたのはトゥルボルド。低い体勢で頭から当たりに行き、一気に小柳を土俵外に吹き飛ばして、4強に勝ち残った。

黒川宗一郎　○押し出し　吉本雄斗

体格で勝る黒川は突っ張りで吉本に圧力をかける。攻め込まれる吉本だが、体を開くと、黒川が一瞬崩れる。しかし、黒川は落ち着いて体勢を立て直すと、連続の突っ張りで吉本を押し出し、貫禄の勝利。

黒川宏次朗　○押し出し　荒木関賢悟

互角の立合いを見せた後、荒木関が突っ張りで黒川を押し出しにかかる。土俵際まで攻め込まれた黒川だが、ここでうまくいなすと荒木関の体が左に泳ぐ。黒川はこの隙を逃さず、突き押しで一気に形勢逆転。そのまま押し出し、準決勝進出を果たした。

準々決勝＝石橋（左）対中出

準々決勝＝黒川（左）対荒木関

準決勝

■準決勝

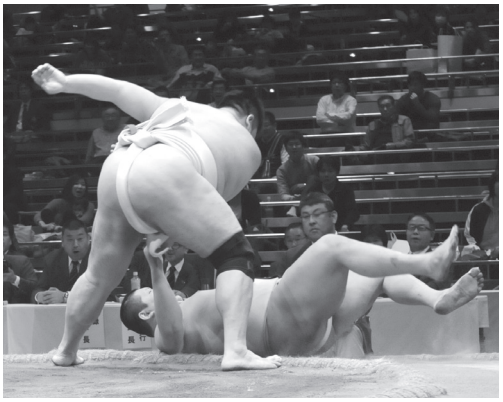
トゥルボルド　○掬い投げ　石橋広暉

立合い後、石橋がまず右を差し、左上手を取ると、即座に上手投げに行くが、ここはトゥルボルドが堪えて決まらない。再度投げの体勢に入った石橋だが、トゥルボルドはこれをやや強引に掬い投げで土俵に転がして破り、トゥルボルドが初の決勝進出を決めた。

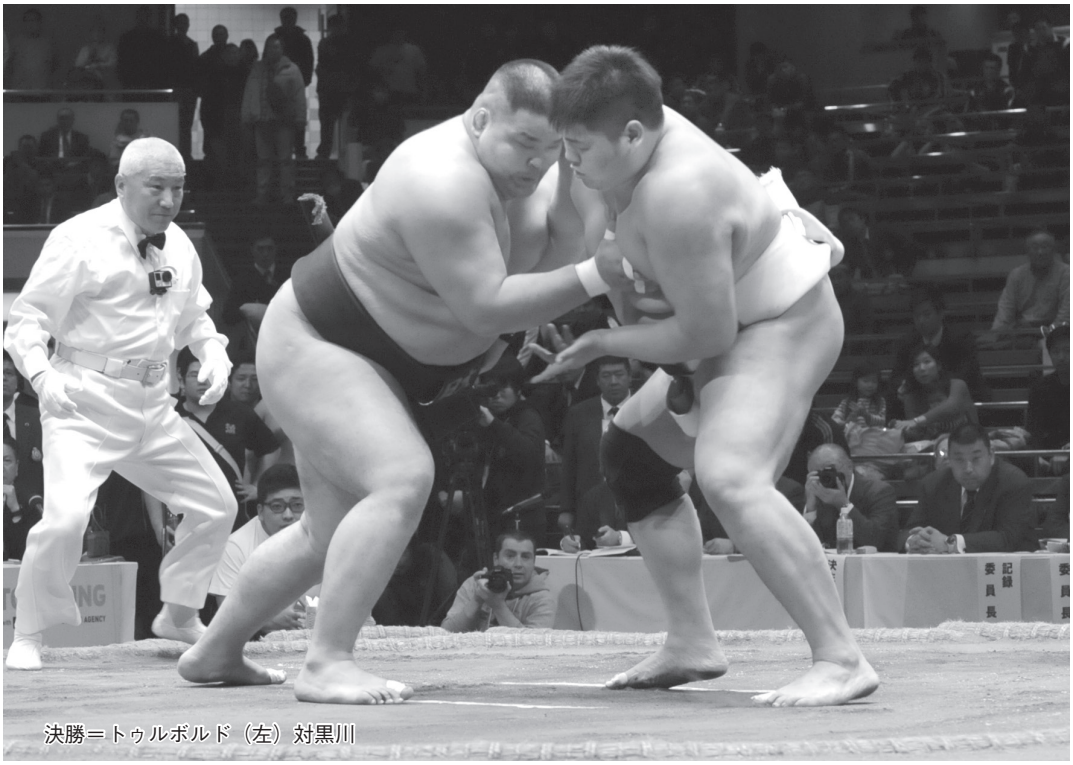
黒川宗一郎　○上手投げ　黒川宏次朗

世界選手権王者の兄・宗一郎と、11月に学生王者になった弟・宏次朗の対決が実現。試合は、まず黒川（宗）が突っ張りで押す。押しこまれる黒川（宏）だが、土俵際を回り込み、残す。ここで、寄り切りを狙う黒川（宗）だったが、黒川（宏）に左脇を押しこまれて、腰が浮き、バランスを崩す。ここで黒川（宏）はもろ差しで十分な体勢になってそのまま寄るが、黒川（宗）は土俵際で持ち直して、得意の上手投げで逆転勝利。兄の意地を見せた黒川宗一郎が2年連続、決勝に駒を進めた。

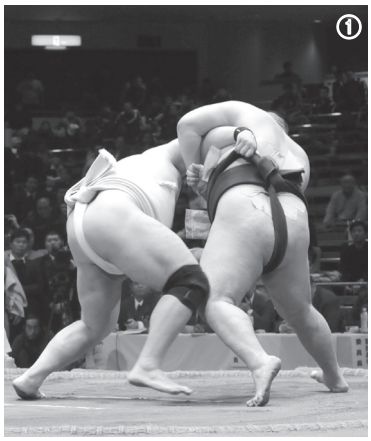
準決勝＝トゥルボルド（右）対石橋

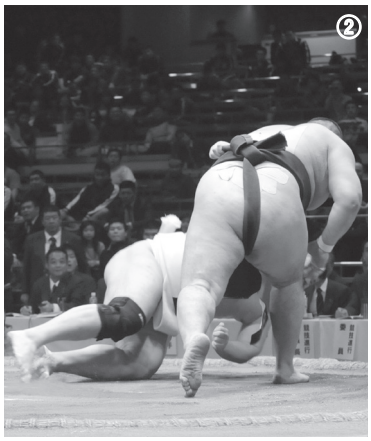


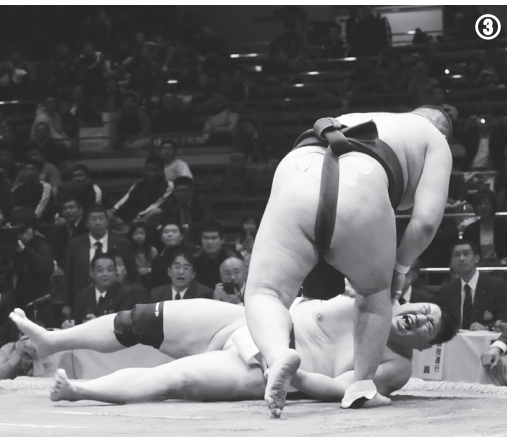
準決勝＝黒川宗一郎（手前）対黒川宏次朗



決勝＝トゥルボルド（左）対黒川







トゥルボルド（右）が小手投げで優勝を決める

■決勝

トゥルボルド　○小手投げ　黒川宗一郎

黒川が立合い後すぐに右前褌を掴むと、トゥルボルドも負けじと左上手を掴む。黒川は手をずらして右上手投げを打とうとするが不発。トゥルボルドも右を差そうとするが、黒川が左手でこれを防ぐ。黒川は左上手を取りに動くが、これに反応したトゥルボルドが右足を引いて、思い切り良く小手投げを打ちに行くと、黒川はそのまま土俵に崩れて勝負あり。トゥルボルドが外国出身者として初の天皇杯を手にした。

◎優勝＝バーサンスレン・トゥルボルド参段（日本大）

トゥルボルドは、現在幕内で活躍する逸ノ城、照ノ富士と同じ飛行機に乗り、モンゴルから相撲留学で来日した。鳥取城北高校を経て日本大学に入学。大学1年生で出場した前々回の本大会では3位入賞を果たしている。

「大学に入ったときからずっと全日本選手権を獲りたいという気持ちがありました。本当に嬉しいですね」

今日の試合について訊ねると、

前列＝優勝したトゥルボルド、後列＝左から黒川宗一郎、石橋広暉、黒川宏次朗

「右四つからの寄り相撲が自分の得意な形。今日はあまり自分の相撲が取れなかったけど、勝ててよかった」と安堵の表情を浮かべた。

今回の優勝で、大相撲の幕下15枚目格付け出しの資格を取得したが、本人は今後について、

「将来はプロ入りして自分がどこまでやれるか試したいです。ただ、今すぐではなく、大学をしっかり卒業してからです」

所属する日本大学の相撲部では外国出身者として初の主将に指名された。これからチームを引っ張って、もっと強くなりたいと語るトゥルボルド。大学を卒業したら、さらに強くなったトゥルボルドを大相撲の舞台で見られることになるだろう。

○2位＝黒川宗一郎四段（アイシン軽金属）

「実力的には元々、トゥルボルド選手の方が上だとは思いますが、最後良い体勢になっている中で投げを打たれるあたりが僕らしいかなとは思います。今年は優勝できるチャンスだと思ったんですけど、まあ、来年に向けて良い課題ができました。目標ができたので、優勝を目指してもう1年頑張ろうと思います。弟との対戦では、あまり感慨はなかったですね。決勝で当たっていればもっとあったと思うんですけど。ただ、弟が力をつけてきているので来年は決勝で対戦したいですね」

▽3位＝黒川宏次朗参段（拓殖大）

「準々決勝くらいから兄貴との対戦は意識していました。一度試合をしてみたいなと思っていたので、勝てなかったですけど、試合ができて良かったです。まだ大学2年生なので、今後のことについては考えていません。とりあえず、来年もこの大会に出て、上位を狙いたいと思っています」

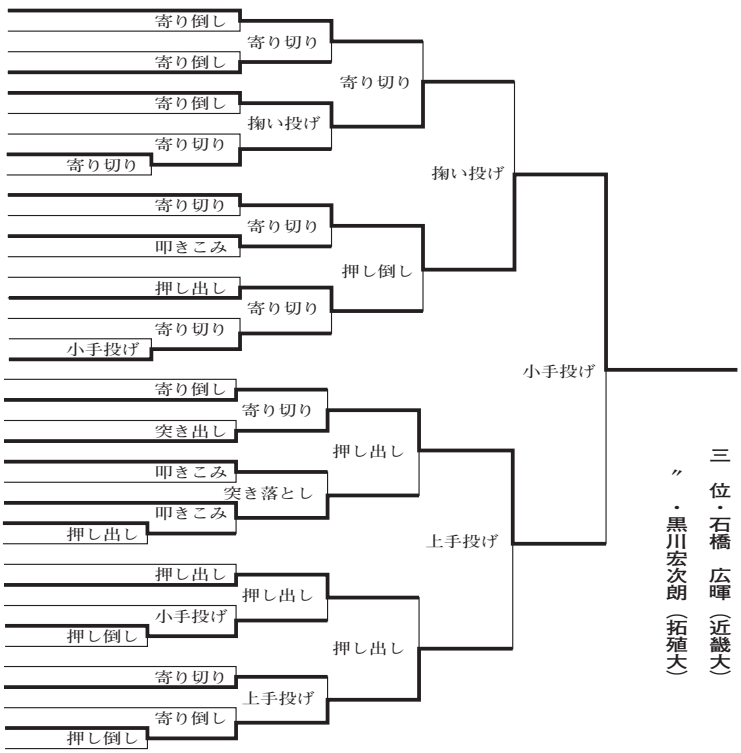
▽3位＝石橋広暉参段（近畿大）

「大学最後の試合ということで優勝したかったですけど、すっきりしました。監督からは豪快に負けたなと言われました。3位でしたが、納得のいく相撲が取れたので、結果には満足しています。今後はプロに入って上を目指したいです」

第64回全日本相撲選手権大会

（決勝トーナメント）

氏名	所属	段位
中出　雄真	（東洋大学職員）	四
村松　裕介	（日本体育大学）	参
稲村　政人	（山口県）	四
梅崎　恭輔	（福岡県）	四
石橋　広暉	（近畿大学）	参
村田　亮	（東洋大学）	参
堀　篤史	（アイシン軽金属）	四
矢後　太規	（中央大学）	参
沢田日出夫	（日本大学）	参
トゥルボルド	（日本大学）	参
工藤　豪人	（福島県）	四
宮下　治也	（拓殖大学）	参
芳賀　翔真	（東洋大学職員）	四
小山内力樹	（日本大学）	参
小柳　亮太	（東京農業大学）	参
西野　倫理	（東洋大学）	参
橋本　拓実	（新潟県）	四
池川　勇気	（近畿大学）	参
楮佐古明輝	（東京農業大学）	参
木﨑　信志	（日本大学）	参
松永　昭久	（東京都）	四
黒川宗一郎	（アイシン軽金属）	四
玉木一嗣磨	（近畿大学）	参
城山　聖羅	（金沢市立工業高校）	参
吉本　雄斗	（中央大学）	参
村山　大洋	（新潟県）	四
鳩岡　良祐	（拓殖大学）	参
古川　貴博	（日本大学）	参
荒木関賢悟	（東洋大学職員）	四
三輪　隼斗	（日本体育大学）	参
中村　優太	（山口県）	参
太田　雅章	（東洋大学）	四
長内　拓磨	（近畿大学）	参
一ノ瀬康平	（福岡県）	四
神山　達哉	（アイシン精機）	四
黒川宏次朗	（拓殖大学）	参
中村　友哉	（金沢学院大学）	参



優勝・トゥルボルド（日本大）

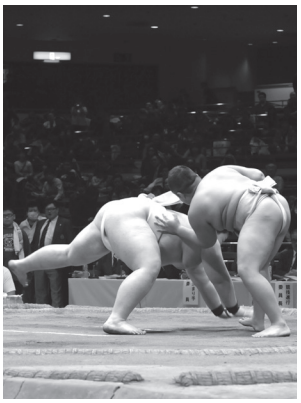
準優勝・黒川宗一郎（アイシン軽金属）

三　位・石橋　広暉（近畿大）

〃　・黒川宏次朗（拓殖大）

全日本相撲選手権大会の予選と本選の間に第28回全日本小学生相撲優勝大会が開催され、6年生、5年生、4年生以下の3部門に各33名、計99名が出場し、優勝を競った。

小学6年生では川副楓馬（熊本）、小学4年生以下の部では市来崎大祐（鹿児島）がそれぞれ初優勝を手にし、小学5年生では内田京汰（静岡）が昨年に続いて連覇を果たした。



5年生の部決勝＝内田（右）対成田

4年生以下の部決勝＝市来崎（右）対山下

【大会結果】

■小学6年生

▽優　勝＝川副楓馬（熊本）

▽準優勝＝吉井　虹（静岡）

▽3　位＝松澤魁斗（新潟）

石戸谷嵩暁（秋田）

■小学5年生

▽優　勝＝内田京汰（静岡）

▽準優勝＝成田力道（青森）

▽3　位＝望月大矢（静岡）

館野　隆（福島）

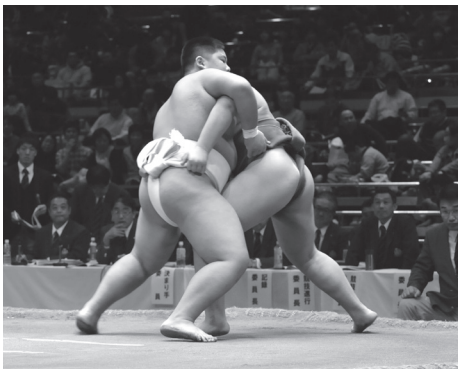
■小学4年生以下の部

▽優　勝＝市来崎大祐（鹿児島）

▽準優勝＝山下昇介（鹿児島）

▽3　位＝坂本正真（東京）

山科啓容（三重）



6年生の部決勝＝川副（左）対吉井

皇后盃第60回全日本なぎなた選手権大会

山本千代錬士が初の皇后盃

決勝＝山本錬士（右）が安喰五段のスネを攻める

皇后盃第60回全日本なぎなた選手権大会（主催＝全日本なぎなた連盟）は、12月6日、愛知県武道館で開催された。全国各地区から選抜された54選手によって、なぎなた日本一の座を懸けて争われた。

決勝で山本千代錬士（和歌山）が安喰愛五段（島根）を降し、13回目の出場で初優勝に輝いた。3位には神山沙記五段（熊本）が入賞した。

試合は5分間3本勝負のトーナメント戦で争われた。時間内に勝敗がつかない場合は、判定とした（決勝は3分間1回の延長あり）。

準決勝には、前回優勝の田中千景（京都）、今年の国体で優勝した和歌山県代表選手の山本千代（和歌山）、4回の優勝経験のある安喰愛（島根）、全日本学生なぎなた選手権大会個人戦で2連覇の実績を持つ神山沙記（熊本）の4人が進出した。

◆準決勝

山本千代　判―　田中千景

ベテラン同士の戦いらしく、一足一刀の間合いでの駆け引きが続く。

自分の打ち間に入れば鋭く打ち込む両者だが、一本が決まらないまま時間終了となった。旗判定の結果、山本の決勝進出が決まった。

安喰　愛　　判―　神山沙記

優勝経験のある安喰に対し、神山も打ち負けることなく互角に戦う。両者の有効打突がないまま時間終了となり、旗判定の結果、安喰が決勝進出を決めた。

◆3位決定戦

神山沙記　　判―　田中千景

落ち着いた試合展開の中、神山は遠間から面を放ち、旗が一本上がったが、決められない。田中も攻めて技を打ち込むが、打突部位を捉えている数は神山のほうが多い。勝負は判定となった。結果は、神山に旗が3本上がり、3位が決定した。

◆決勝

山本千代　　判―　安喰　愛

気位で優位にたつ山本は、打突後も姿勢が崩れない。安喰の打突は軽いのか、決め切れない。延長でも両者に有効打突はなく、判定の結果、山本千代が初優勝に輝いた。

3位決定戦＝神山（右）が田中のスネを攻める

◎優勝＝山本千代錬士（和歌山）

「いつもは上を目指して勝ちたいという思いが強かったのですが、今日は一試合一試合、相手との勝負を大切にしようと思い、一本取るか取られるかという勝負にポイントを置いて試合をしました。

今後は、優勝の名に恥じない、みんなから応援してもらえるなぎなたをしていけるよう頑張ります」

○準優勝＝安喰愛五段（島根）

「今年は国体にも出場していなかったので、試合間隔が開いてしまった大会でした。どうなるかと不安はありましたが、ここまで上がれたことには満足し、嬉しく思っています。

打たれた所もいっぱいありますので、そのような所を見直し、いいなぎなたにしていければと思います」

▽3位＝神山沙記五段（熊本）

「今は自分の試合ができ、ほっとして良かったなという気持ちですが、これから悔しさが出てくると思うので、次は更に上を目指して頑張りたいと思います。

誰が見てもこの人は優勝者だなと思えてもらえるような試合ができる選手になりたいです」

左から神山沙記五段、山本千代錬士、安喰愛五段

準決勝＝山本（左）対田中

準決勝＝安喰（右）対神山

公開演武

全日本なぎなたの形（仕・小野恭子、打・吉井美恵子）

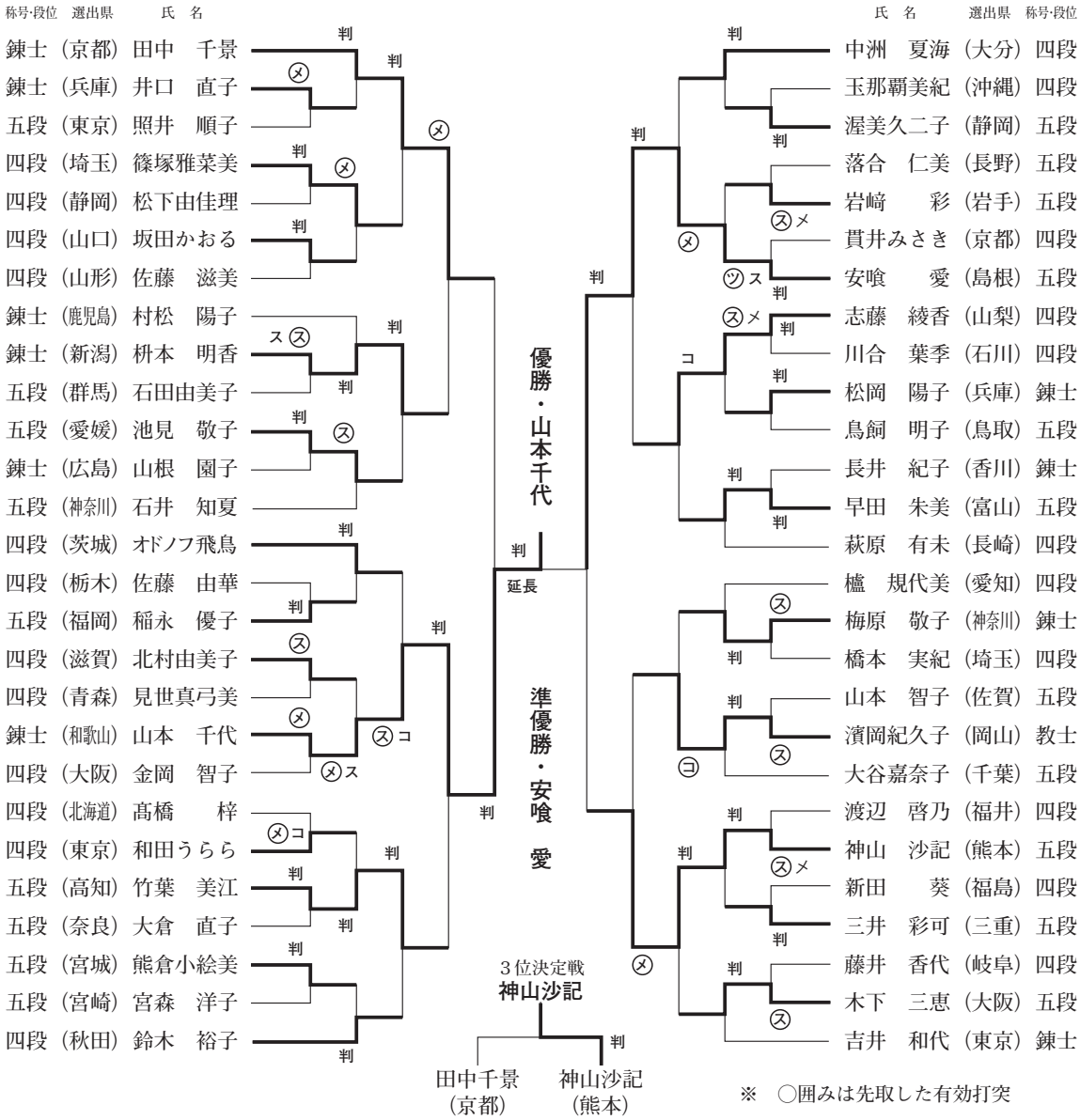
天道流薙刀術（受太刀・砂川碧、仕太刀・木村恭子）

公開演武

団体基本

直心影流薙刀術（打太刀・園部正美、仕太刀・荻原晴子）

皇后盃　第60回全日本なぎなた選手権大会



※　○囲みは先取した有効打突

決勝＝増田（左）が田中の面を攻める

全日本男子なぎなた選手権大会

増田道仁（兵庫）が初優勝

第15回全日本男子なぎなた選手権大会（主催＝全日本なぎなた連盟）は、12月5日、愛知県武道館で開催された。

大会には、全国から49名の選手が出場。決勝は、前回大会と同一選手が勝ち上がり、増田道仁二段（兵庫）が前回の覇者・田中康介五段（三重）を降し、初優勝を果した。3位は佐橋五月四段（愛知）が入賞した。

大会前には、公開競技として演技競技が行われ、藤田智也・田中康介（三重）が優勝した。試合競技終了後には公開演技として、参加者全員による団体基本が行われた。

試合は4分間3本勝負のトーナメント戦で争われた。時間内に勝敗がつかない場合は、判定とした（決勝は2分間1回の延長あり）。

準決勝には3連覇を目指す田中康介（三重）、佐橋五月（愛知）、木村光宏（香川）、増田道仁（兵庫）が勝ち上がった。

準決勝第一試合、田中対佐橋は、田中が小手を奪って一本勝を収め、決勝進出を決めた。第二試合は木村対増田。一進一退の攻防が続くが、判定で増田が勝ち、決勝へ進出した。

◆決勝

増田道仁　判一　田中康介

序盤の田中は落ち着いた試合運びだったが、中盤以降は増田に打ち込まれ、増田のペースで試合が動く。田中は攻めきれず技を打ち込み、増田に読み切られ、打ち返されてしまう。両者、有効打突が奪えないまま時間となり延長戦へ。延長に入っても増田のペースで試合が進んだ。延長でも決着はつかずに判定となり、白旗3本が上がり、増田の初優勝が決まった。

◎優勝＝増田道仁二段（兵庫）

「前回の大会では勝ちたい気持ちが強く、固くなっていました。今回は

勝とうという気持ちで試合をしませんでした。3月にヘルニアになり、しばらく練習ができませんでした。練習できない期間中にいろいろな人に声をかけていただきました。そんな心配してくださった人や、お世話になった人達のために頑張ろうと思っていたら試合が終わっていました。勝とうという気持ちじゃなかったのが良かったのだと思います。

ゆくゆくは、父（増田良明三段）と決勝戦で戦いたいです」

左から田中康介五段、増田道仁二段、佐橋五月四段

○準優勝＝田中康介五段（三重）

「悔しいですね。前回の決勝で試合をしたとき、増田君とは二度と試合はしたくないなと思ったんです。彼は強いですからね。今回のトーナメントを見たときに増田君が逆側にいたので、安心したんです。こんなふうに思うこと自体、気持ちで負けていましたよね。負けましたけどいい勉強になりました。増田君と決勝で試合ができて良かったと思います。課題が見つかりました。来年はチャレンジャーなので頑張ります」

演技競技優勝＝三重県・藤田智也（右）・田中康介

▽3位＝佐橋五月四段（愛知）

「地元開催の大会で入賞できたことは嬉しく思います。ただ、試合内容は動きが固く、なかなか一本になる打突を出しきれなかったことが反省点ですね。もっと勝負強くなることが課題です」

3位決定戦＝佐橋（左）対木村

団体基本

【大会結果】

▽優勝＝増田道仁（兵庫）
▽準優勝＝田中康介（三重）
▽3位＝佐橋五月（愛知）

◆演技競技

▽優勝＝藤田智也・田中康介（三重）
▽準優勝＝中村眞人・黒住将伸（奈良）
▽3位＝小芝大輔・田村哲彦（東京）

公益財団法人全日本なぎなた連盟創立60周年記念式典・祝賀会

連盟創立60周年を盛大に祝う

全日本なぎなた連盟創立60周年記念式典・祝賀会が平成27年12月5日、愛知県・名古屋市のホテルオークラレストラン名古屋で行われ、96名のなぎなた関係者が出席して60周年の節目を祝った。

なぎなたの発展に尽力した物故者へ献花を行った後、式典は午後6時に佐藤浩市全日本なぎなた連盟会長の開会の辞で始まった。次に、日本武道館へ感謝状の贈呈が行われた。

続いて全日本なぎなた連盟の表彰に移り、顕著な功績のあった個人・団体に対する特別功労者表彰、功労者表彰があり、感謝状が贈られた。

式典終了後に、祝賀会に移り、佐藤浩市全日本なぎなた連盟会長の挨拶、松永光日本武道館会長、江﨑鐵磨愛知県なぎなた連盟会長らの祝辞の後、祝電の紹介が行われた。

三藤芳生日本武道館理事・事務局長の発声による乾杯で祝杯をあげ、連盟創立60周年を盛大に祝った。

快適で安全な都市空間の創造をめざす …東洋実業グループ

●ビルディング・トータル・マネジメント　●清掃等建築物の環境衛生管理
●空調、電気、水系統等諸設備の運用、管理　●警備、保安、駐車場管理
●原子力セキリュリティ及び施設メンテナンス　●工場、ダム等のセキリュリティ　●案内、受付他料金徴集業務　●公園等のグリーンメンテナンス
●ビルメンテナンス用ソフトの開発販売　●バイオ研究開発
●その他建築物の運用、管理に係る一切の業務

TOYO JITSUGYO 株式会社 東洋実業　代表取締役 横田 正弘

札幌本社／札幌市中央区北六条西22丁目250番14東実ビル　TEL(011)612-1911(代)
東京本社／東京都新宿区西新宿1丁目26番2号新宿野村ビル　TEL(03)3345-0531
営業所／函館・室蘭・苫小牧・千歳・恵庭・小樽・余市・岩内・石狩・岩見沢・旭川・士別・富良野・占冠・帯広・北見・釧路・日高・遠別・深川・埼玉
海外事業／株式会社東洋実業マレーシア／東洋実業シンガポール PTE. LTD.／東洋セキュリティ＆ビルディング・マネジメント（香港）LTD.

男子 100kg 超級決勝＝七戸龍（左）対原沢久喜（右）

男子 100kg超級 原沢久喜が初優勝

JUDO GRAND SLAM TOKYO 2015

柔道グランドスラム東京２０１５（主催＝国際柔道連盟・主管＝全日本柔道連盟）は12月４日～６日の３日間、東京体育館（東京都渋谷区）で、世界91の国と地域から男子295名、女子181名の計476名の選手が参加し、男女14階級で覇が争われた。

本年は、来年に迫ったリオデジャネイロ五輪の代表選手の選考を兼ね、日本選手は各階級１人の五輪日本代表を目指し、鎬（しのぎ）を削った。代表選手は４月の全日本選抜体重別選手権（重量級は全日本選手権）後に最終選考される。

◇

大会で日本選手は、男子６階級、女子５階級で優勝を果し、リオ五輪上位入賞へ向けて弾みを付けた。

男子100kg超級では、原沢久喜（はらさわひさよし）（ＪＲＡ）が七戸龍（しちのへりゅう）（九州電力）との延長戦を制し、初優勝に輝いた。この階級での日本選手優勝は６年ぶり。

女子78kg超級では、稲森奈見（いなもりなみ）（三井住友海上）がオルティス（キューバ）を破り、２連覇を果した。

男子

▽60kg級

前々回世界選手権優勝者で今大会注目の髙藤直寿（東海大）が登場、決勝戦まで駆け上った。相手はムドラノフ（ロシア）。開始早々、髙藤は相手を左右に翻弄し袖釣込腰で技有をとる。終始、髙藤が試合を制し、最後は大内刈で技有をとり、合技一本とし、金メダルを勝ち取った。

◎優勝＝髙藤直寿選手（東海大）

「前回の世界選手権で負けてから僕の歯車が狂ってしまい、周りの人にたくさん迷惑をかけました。こうして優勝できたのが夢みたいです。最後は身体が勝手に動いてくれました」

男子60kg級決勝＝技有となった髙藤の大内刈

▽66kg級

決勝は、前回世界選手権金メダルの海老沼匡（パーク24）と髙上智史（旭化成）の日本人対決となった。試合前半、髙上は2つの肩車で有効、技有をとり、ポイントをリードする。焦る海老沼も腰車を内股に変化させ有効を取る。試合後半、髙上が背負投で駄目押しの有効をとり、逃げ切った。

◎優勝＝髙上智史選手（旭化成）

「リオオリンピックを目指しているので、優勝しないと繋がらないと思い、挑みました。海老沼選手に勝てて嬉しかったし、自信にもなりました。これからも頑張ります」

男子66kg級決勝＝海老沼（左）と髙上の対決

▽73kg級

アスタナ世界選手権優勝者の大野将平は直前で欠場、前回世界選手権優勝者の中矢力（ALSOK）は、3回戦で敗れた。そんな中、もう一人の世界王者、秋本啓之（了徳寺学園職）は決勝まで勝ち上がった。相手はかつての後輩、世界ランク2位のアン・チャンリン（韓国）。試合中盤、秋本の背負投が技有となり、試合終了。秋本は連覇を達成した。

◎優勝＝秋本啓之選手（了徳寺学園職）

「決勝は意地で戦いました。リオへの希望の光は小さいものですが、最後までそれを求めて、試合に臨みたいと思います」

男子73kg級決勝＝秋本（上）の背負投

▽81kg級

準決勝で、アスタナ世界選手権優勝者の永瀬貴規（筑波大）はイ・ソンス（韓国）と対戦。脚とりの反則と判定され、まさかの敗退、波乱の展開となった。名誉挽回を図りたい3位決定戦、永瀬はムストプーロス（ギリシャ）に腕挫十字固で一本。3位に食い込んだ。

決勝はチリキシビリ（ジョージア）がイ・ソンスを破り、優勝した。

▽3位＝永瀬貴規選手（筑波大）

「準決勝では、足を掴んだと判定されてしまいました。五輪じゃなくてよかったと思いたいです。どんな状況でも勝てる実力をつけたいです」

男子81kg級3位決定戦＝永瀬（上）の腕挫十字固

▽90kg級

男子 90kg 級決勝＝僅差で勝利したベイカー（右）

ベイカー茉秋（東海大）は、準決勝でアスタナ世界選手権金メダリストのカク・ドンハン（韓国）を降し、弾みを付ける。決勝では、ロンドン五輪2位のゴンサレス（キューバ）と対戦し、指導2で優勢勝ちした。

◎優勝＝ベイカー茉秋選手（東海大）

「2位と優勝では全く違います。決勝では何が何でも優勝してやろうと臨みました。オリンピックで優勝しないとこの優勝も無意味です。リオでの金メダルを目指し、頑張ります」

▽100kg級

アスタナ世界選手権王者の羽賀龍之介（旭化成）が登場。順当に勝ち進み、決勝はチョ・グハム（韓国）と対決した。決勝では、一本を取ることより、勝つことに重点を置いたという羽賀。指導3の優勢勝ちで、手堅く優勝をものにした。

◎優勝＝羽賀龍之介選手（旭化成）

「オリンピックが近くなりましたので、意識して試合に挑みました。今大会は強豪選手が多く、五輪の練習だと思い、戦いました」

男子 100kg 級決勝＝羽賀（左）が攻める

▽100kg超級

男子 100kg 超級決勝＝原沢（左）対七戸

決勝は、準決勝で上川大樹（京葉ガス）を破った原沢久喜（ＪＲＡ）と、七戸龍（九州電力）のリオ五輪代表を掛けた直接対決となった。

試合開始後の3分半は、組手争いとなり、試合は膠着の様相であった。残り1分半、互いに指導3となり、動いたのは原沢。積極的に攻勢をかける。延長戦に入っても、原沢の優勢は続き、ＧＳ46秒、ついに七戸が指導4、原沢が反則勝ちとなり、初優勝に輝いた。

◎優勝＝原沢久喜選手（ＪＲＡ）

「決勝は、自分から先に攻めようと思っていました。それが後半に出せました。勝つことができたので、オリンピックに向けて一つ安心しました。直接対決で七戸選手に勝つことができたのは、よかったですね。オリンピック代表には、勝って行くしか道がないと思っています。このまま、この勢いを大事にして、勝ち続けてオリンピックに進みたいと思います」

女子

▽48kg級

決勝には、ロンドン五輪王者のメネゼス（ブラジル）に競り勝った浅見八瑠奈（コマツ）と、近藤亜美（三井住友海上）の日本選手同士の対戦となった。残り36秒、近藤は指導差1でリードを許す。直後、近藤は投技と見せかけた大外刈で技有を奪い、そのまま袈裟固で合技一本。逆転勝ちし、3連覇。浅見との三度目の直接対決を勝ち越した。

◎優勝＝近藤亜美選手（三井住友海上）

「どんな逆境になってもあきらめませんでした。大外刈が決まった時はむっちゃ嬉しかったです」

女子48kg級決勝＝近藤（右）が猛攻をかける

▽52kg級

女子52kg級決勝＝中村（左）対志々目

決勝は、アスタナ世界選手権金メダルの中村美里（三井住友海上）と志々目愛（帝京大）が対決し、指導差2で中村が優勢勝ち。6年ぶり2度目の優勝を遂げた。

◎優勝＝中村美里選手（三井住友海上）

「久しぶりに金メダルを取れてほっとしています。本当は内容も伴って優勝したかったのですけれど、まだまだ課題が残る試合となりました。決め技がまだ少ないので、組手をもう少し早くして投技に繋げたいですね。リオに向けての大事な闘いとして、一年最後の締めくくりとして、貴重な優勝でした」

▽57kg級

ロンドン五輪、アスタナ世界選手権大会金メダリストの松本薫（ベネシード）は2回戦でシルバ（ブラジル）に一本負け。リオに向け、課題を残した。20歳の芳田司（コマツ）が決勝まで駒を進め、ルセボー（フランス）と雌雄を決した。試合中盤、芳田は相手の虚をつき鮮やかな内股を決め、一本。初優勝に輝いた。

◎優勝＝芳田司選手（コマツ）

「最後の内股は狙ってました。優勝できて嬉しいです。今、目の前にある試合に勝っていって、リオ五輪、そして東京五輪に繋げていければと思います」

女子57kg級決勝＝芳田（手前）の内股

▽63kg級

女子63kg級3位決定戦＝田代（左）が寝技に入る

準々決勝で田代未来（コマツ）は、ヴァルコア（ロシア）に敗れた。心機一転、敗者復活戦で勝ち上がった田代は3位決定戦でファンエムデン（オランダ）と対戦。上四方固で一本を勝ち取り、3位に入賞した。

決勝は、世界ランク1位のトルステニャ（スロベニア）と同3位のトライドス（ドイツ）。試合終盤、トライドスは袈裟固を決め、優勝した。

▽3位＝田代未来選手（コマツ）

「一番高い所に立たなければ意味がないですが、最低限の結果を残そうと、3位決定戦に挑みました。16年は笑って終えるようにしたいです」

▽70kg級

女子 70kg 級決勝＝大野（左）対新井

決勝は、新井千鶴（三井住友海上）と大野陽子（コマツ）の日本人対決となった。互いに指導3を受け、延長戦に突入。試合は激しさを増す。両者死力を尽くした闘いとなった。GS3分半で大野は指導4を受け、新井が反則勝ちを収めた。

◎優勝＝新井千鶴選手（三井住友海上）

「決勝はしんどくて、泥試合になってもいいとガツガツいきました。リオは近くなったと思います。一つ一つの試合に集中したいと思います」

▽78kg級

長年、日本が苦手としている78kg級。準決勝では、アスタナ世界選手権覇者の梅木真美（環太平洋大）がロンドン五輪覇者のハリソン（アメリカ）に指導差1で敗れ、続く佐藤瑠香（コマツ）もスティーンフィス（オランダ）に有効を取られ敗退した。3位決定戦でも両選手は敗れ、日本選手は表彰台から姿を消した。

決勝は、両選手に競り勝ったハリソン対スティーンフィス。ハリソンが大内刈で有効をとり、優勝した。

女子 78kg 級決勝＝ハリソン（上）の大内刈が有効となる

▽78kg超

アスタナ世界選手権2位の田知本愛が負傷欠場となった78kg超級。田知本のライバル山部佳苗（ミキハウス）は準々決勝で敗退。朝比奈沙羅（東海大）も準々決勝で姿を消した。有力選手が崩れるなか、山部を僅差で降した前回王者の稲森奈見（三井住友海上）が決勝に駒を進めた。

決勝では、世界ランク3位のオルティス（キューバ）と対戦。

終盤、稲森は内股から横四方固を決め、合技一本。ロンドン五輪覇者オルティスから大金星をあげ、グランドスラムで連覇を達成した。

◎優勝＝稲森奈見選手（三井住友海上）

「この一年、優勝した大会が一つもなかったので、優勝できて嬉しいです。昨日までの先輩・後輩・同期の優勝もいい励みになり、今回、全ての試合、相手選手に集中することができました。グランドスラム東京で優勝しないと先は厳しいと思っていたので、これで五輪代表になんとか繋がったと思います。一つ一つやるべきことをやって、自信をつけていきたいです」

ミツボシの柔道用品

女子 78kg超級決勝＝稲森（下）の内股

【大会結果】

◆男子	優勝	2位	3位	日本選手
60kg級	髙藤直寿（東海大）	ムドラノフ（ロシア）	志々目徹（了徳寺学園職） キム・ウォンジン（韓国）	青木大（日本体育大）＝5位 山本浩史（ALSOK）＝1回戦敗退
66kg級	髙上智史（旭化成）	海老沼匡（パーク24）	髙市賢悟（東海大） ダワードルジ（モンゴル）	竪山将（鹿屋体育大）＝5位
73kg級	秋本啓之（了徳寺学園職）	アン・チャンリン（韓国）	タタラシビリ（ジョージア） モグシコフ（ロシア）	中矢力（ALSOK）＝3回戦敗退　橋本壮市（パーク24）＝3回戦敗退 田村和也（パーク24）＝3回戦敗退
81kg級	チリキシビリ（ジョージア）	イ・ソンス（韓国）	永瀬貴規（筑波大） ワン・ギチュン（韓国）	海老泰博（旭化成）＝3回戦敗退 丸山剛毅（パーク24）＝2回戦敗退　長島啓太（JRA）＝2回戦敗退
90kg級	ベイカー茉秋（東海大）	ゴンサレス（キューバ）	西山大希（新日鐵住金） カク・ドンハン（韓国）	吉田優也（旭化成）＝7位 大辻康太（日本エース）＝2回戦敗退
100kg級	羽賀龍之介（旭化成）	チョ・グハム（韓国）	マレ（フランス） ガシモフ（アゼルバイジャン）	高木海帆（JRA）＝3回戦敗退 ウルフアロン（東海大）＝2回戦敗退　下和田翔平（京葉ガス）＝2回戦敗退
100kg超級	原沢久喜（JRA）	七戸　龍（九州電力）	上川大樹（京葉ガス） ボンダレンコ（ウクライナ）	王子谷剛志（旭化成）＝7位
◆女子	優勝	2位	3位	日本選手
48kg級	近藤亜美（三井住友海上）	浅見八瑠奈（コマツ）	コンドラテヴァ（ロシア） メネゼス（ブラジル）	渡名喜風南（帝京大）＝2回戦敗退 山﨑珠美（山梨学院大）＝1回戦敗退
52kg級	中村美里（三井住友海上）	志々目愛（帝京大）	橋本優貴（コマツ） ウラニー（フランス）	西田優香（了徳寺学園職）＝5位
57kg級	芳田司（コマツ）	ルセボー（フランス）	カラカス（ハンガリー） ドルジスレン（モンゴル）	松本薫（ベネシード）＝2回戦敗退　石川慈（コマツ）＝2回戦敗退 宇髙菜絵（コマツ）＝2回戦敗退
63kg級	トライドス（ドイツ）	トルステニャ（スロベニア）	田代未来（コマツ） ヴァルコワ（ロシア）	能智亜衣美（筑波大）＝2回戦敗退 鍋倉那美（大成高）＝1回戦敗退　嶺井美穂（桐蔭学園高）＝1回戦敗退
70kg級	新井千鶴（三井住友海上）	大野陽子（コマツ）	ポルテーラ（ブラジル） ボルダー（イスラエル）	池絵梨菜（国士舘大）＝5位 ヌンイラ華蓮（了徳寺学園職）＝7位
78kg級	ハリソン（アメリカ）	スティーンフィス（オランダ）	ベレンセク（スロベニア） ギッボンズ（イギリス）	佐藤瑠香（コマツ）＝5位　梅木真美（環太平洋大）＝5位 緒方亜香里（了徳寺学園職）＝2回戦敗退　濵田尚里（自衛隊体育学校）＝7位
78kg超級	稲森奈見（三井住友海上）	オルティス（キューバ）	キンゼルスカ（ウクライナ） アンデオル（フランス）	冨田若春（埼玉栄高）＝5位 朝比奈沙羅（東海大）＝7位　山部佳苗（ミキハウス）＝7位

〝2020年東京オリンピックに向けて〟

マリウス・L・ビゼール国際柔道連盟会長 記者会見

大会最終日、マリウス・L・ビゼール国際柔道連盟会長の記者会見が行われた。

Q＝東京オリンピックに向けた来日後の動向について

「今回の来日後すぐに、馳浩文科相、鈴木大地スポーツ庁長官、森喜朗オリンピック組織委員会会長にお会いし、2020年の東京オリンピックについて、また、2019年のプレ大会の東京開催の可能性など色々な話し合いをさせていただきました。また、柔道の様々なトピック、柔道の教育的な側面などについて有意義な会合の場がもてました」

Q＝東京オリンピックでの団体戦の可能性について

「オリンピックにおいて団体戦を行うことによって、柔道の価値・興味はさらに高まると確信しております。IJFでは団体戦実施に向けたプロジェクトも立ち上げ、すでに様々な準備を進めております。IOCから最終的な申請の期限も伝えられておりますので、団体戦採用に向け、戦略を練っております。男子団体戦、女子団体戦、男女混合団体戦の可能性も視野に入れた提案を検討していきます」

Q＝2019年世界選手権大会（オリンピックプレ大会）について

「2019年の世界大会については、複数の国が興味を示しております。2020年に東京でオリンピックが開催されますので、前年に同じ場所でプレ大会を行うことは全ての関係者に大きなメリットがあると考えております。リオ五輪前のIJF理事会で開催国を決定いたします」

2015年
少林寺拳法全国大会
in KYOTO

《未来創生》をテーマとして

～少林寺拳法の浪漫と極～

発表の部「親子の部」

２０１５年少林寺拳法全国大会 in KYOTO（主催・少林寺拳法連盟、主管・京都府少林寺拳法連盟）が「《未来創生》～少林寺拳法の浪漫と極～」をテーマとして、11月14日・15日、島津アリーナ京都（京都府立体育館）で開かれた。会場には約６３００名（参加拳士２７００名）が集まり、拳士たちは日頃から積み重ねてきた修練の成果を存分に披露した。

■初日　11月14日

午後12時15分に開会、少林寺拳法連盟新井庸弘会長の挨拶でスタートした。

初日の競技は、技の習得度を競う「競技の部」の12種目の組演武、３種目の団体演武の予選が１R～３Rまで各15コートでそれぞれ行われ、翌日の本選進出を決めた。

▽祝賀会

祝賀会は、同日午後６時から、京都府少林寺拳法振興会（小野俊一会長）の支援協力により、リーガロイヤルホテル京都「春秋の間」にて盛大に開催された。京都伝統の舞妓、芸妓による華やかな祝舞が披露され、場を華やかに彩り、参加者は、時間のある限り懇親を深めた。

■2日目　11月15日

２日目は午前９時に開会した。

▽開会式

開会式では、京都府少林寺拳法連盟北尾宜史副理事長の開会宣言、国歌斉唱、鎮魂行に続き、大会会長・京都府少林寺拳法連盟高野昭会長が挨拶に立った。「開祖の京都別院時

発表の部「夫婦の部」

新井庸弘少林寺拳法連盟会長

宗由貴少林寺拳法グループ総裁

発表の部「小学生団体の部」

高野昭大会会長
（京都府少林寺拳法連盟会長）

発表の部「障がい者の部」

発表の部「小学生の部」

代より、少林寺拳法にとって、京都は第二の故郷です。温故知新の言葉通り、少林寺拳法の歴史、開祖の思い、志を大切にし、未来へ引き継ぎ、伝えていっていただきたいと思います」

来賓祝辞では、孫忠宝（そんちゅうほう）中華人民共和国駐大阪総領事館副総領事、門川大作京都市長、山下晃正京都府知事代理、伊吹文明京都府少林寺拳法連盟顧問が出場拳士たちを激励し、最後に、少林寺拳法連盟新井庸弘会長が主催者挨拶を行った。

その後、仲野美登里拳士（全国高等学校少林寺拳法連盟）、山本由佳拳士（兵庫県）の2名より、優秀弁論の発表が行われた。少林寺拳法グループ宗由貴総裁より特別賞が授与された。

▽競技

開会式終了後、4Rから8Rまで、全15コートで競技の部、発表の部がそれぞれ行われた。

初日をはるかに上回る拳士たちの気合の声が場内に響き渡った。

発表の部は、少林寺拳法の幅広い可能性を追求するために行われてい

る。小学生の組・団体演武や男女の運用法（防具を着けた攻防）のほか、「親子の部」「夫婦の部」「障がい者の部」といった年齢や性別、ハンディキャップを越えた演武が行われた。発表の部では、すべての演武の後、全員に賞状が贈られた。

大会途中、アトラクションとして、龍谷大学の学生による「京炎そでふれ！ 輪舞曲（ロンド）」の踊りが披露され、場内を盛り上げた。

全ての演武終了後、少林寺拳法連盟公認デモンストレーションチームによる演武披露が行われ、場内暗転の中、単独、柔法（椅子捕り・立ち技）、剛柔一体の三人掛、組演武がそれぞれ行われ、場内を魅了した。

その後、表彰式が行われ、各部門の受賞者へ大会役員から表彰状が手渡されると、会場からは大きな拍手が送られた。

▽閉会式

閉会式では、宗由貴少林寺拳法グループ総裁が挨拶を行った。

「今、私たちが生きる社会は、元気で夢と希望を持って楽しく生きることがとても難しい時代だと言われています。でも、少林寺拳法を行じる皆さんには、是非、人の役に立って、元気で、そして何よりも楽しく、先頭に立ち、人々の牽引役となって欲しいと思います。大会テーマは『未来創生』。未来を作るのは、皆さんです。全国大会を通じてさまざまな体験で得たものを糧にして、その先頭に立って下さい。心から期待しています」

引き続き、東日本大震災復興支援チャリティーとして、震災支援のために集められた募金（目録）が高野大会会長から新井会長へ贈呈された。

最後に、大会実行委員長富澤伸二京都府少林寺拳法連盟理事長より謝辞があり、次回の全国大会は大分県で開催されることが事務局から発表され、清野姿京都府少林寺拳法連盟副理事長の閉会宣言で大会は幕を閉じた。

（執筆：一般財団法人少林寺拳法連盟）

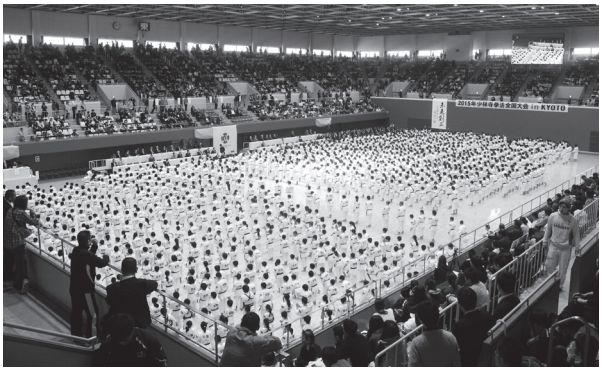
優秀弁論発表＝
仲野美登里拳士（全国高校）

優秀弁論発表＝
山本由佳拳士（兵庫）

競技の部　「男子運用法の部」

アトラクション（龍谷大学）

連盟公認デモチーム



大会の様子

鎮魂行の様子

■大会結果（競技の部）

種目	最優秀賞	優秀賞	優良賞
一般男子マスターズA	谷口洋一・斎藤理佐（埼玉）	松浦俊也・千葉和仁（岩手）	伊藤作次・向井義和（愛知）
一般男子マスターズB	分藤秀明・川久保弘智（東京）	徳井照男・西　弘志（東京）	加治　隆・小林　惠（埼玉）
一般女子マスターズ	浅芝春美・森下明子（奈良）	坪井裕恵・森脇　梓（広島）	竹之下ゆう子・久保田和枝（宮崎）
一般男子五段以上	亀井貴史・酒谷親弥（大阪）	尾崎嘉昭・戸田　翔（埼玉）	松本圭司・小原隆志（香川）
一般男子三段、四段の部	小澤晴太・川島佑斗（東京）	中村孔明・中村康仁（全日本実業団）	山田優樹・下村周平（奈良）
一般男子初段、二段の部	山上優希・岩佐良隆（新潟）	森健二・吉川昂伽（京都）	桂木周平・中谷友哉（大阪）
一般女子三段以上	遊作麻唯子・稲川真理（神奈川）	采野早織・森井愛美子（京都）	鈴木里菜・高橋育恵（東京）
一般女子初段、二段	上西絵梨香・久遠　華（東京）	荒井咲桜香・荒井流風香（東京）	白神淑江・弓場美里（岡山）
一般男女有段	池田　翔・松田結夏（大阪）	遠藤　翼・石井なるみ（東京）	奥谷宜晃・溝田春香（兵庫）
大学生男子	成田　樹・千葉周平（宮城）	宮下直也・井上　陸（京都）	古澤慈士・宮迫汐里（大阪）
大学生女子	畔蒜みく・宇野真里奈（東京）	田中涼香・北田恵子（大阪）	藤木彩乃・森安理紗（京都）
高校生男子	澤田　武・刈屋壮基（埼玉）	後藤拓真・阿部旭秀（宮城）	山田　葵・大西彪雅（香川）
高校生女子	濱中珠穂・谷口藍梨（全国高校）	河原やよい・木原愛望（大阪）	石田叶恵・金子晴香（静岡）
中学生男子	高橋右京・松田大毅（千葉）	塚田康生・土田　龍（北海道）	大西千匡・谷　龍一（香川）
中学生女子	遠藤歓奈・藤山果音（三重）	岡田真祐・金川未来（兵庫）	山田紫園・福家由子（香川）
一般団体	川口裕三ほか（大阪）	井関登士彦ほか（和歌山）	伊藤仁美ほか（東京）
大学生団体	青木拓磨ほか（東京）	堀尾愛ほか（全日本学生）	羽生智彦ほか（全日本学生）
高校生団体	真田昂汰ほか（兵庫）	中田拳ほか（全国高校）	井上皓太ほか（福岡）
中学生団体	新原裕翔ほか（北海道）	物上巧ほか（全国中学校）	箕浦健介ほか（滋賀）

●第14回剣道文化講演会

渡辺正行氏（タレント・俳優）が講演

「へこむ時は大きくへこむ、するとより復活するレベルが高い」

第14回剣道文化講演会は、12月5日に東京・飯田橋のベルサール飯田橋ファーストで450名の聴講者を集めて開かれた。

講演会は2部制がとられ、第1部は『16WKC 激闘を振り返る』のビデオ上映、第2部はタレント・俳優の渡辺正行氏が講演を行った。

■第1部（ビデオ上映）

『16WKC 激闘を振り返る』

まずは、5月29日～31日に日本武道館で行われた16KWC（第16回世界剣道選手権大会）の日本男子団体戦決勝を中心としたビデオのダイジェスト版が上映された。

会場内は、惜しい場面では嘆息が漏れるなど、本番さながらに盛り上がり、聴講者は日本選手団の活躍に一喜一憂した。

上映後は、佐藤征夫国際剣道連盟事務総長、全日本剣道連盟常任理事・国際委員長より「剣道の国際普及というのは、剣道の良さを国際的に伝え、普及していくということです。すなわち日本の伝統文化の素晴らしさ、あるいは日本人の底の根の良さを広く世界に理解してもらうことです。世界剣道選手権大会では、運営を含めた観戦態度等、外国の方に高評価をいただきました。これからも引き続き、剣道の国際普及に取り組んでまいります」と挨拶があった。

■第2部（講演）

渡辺正行氏（タレント・俳優）

『わが人生と剣道と』

渡辺氏のプロフィール紹介の後、同氏の剣道人生が語られた。

▽中学・高校時代は剣道に打ち込む

渡辺氏は中学時代に剣道部に入部。その後、千葉県立大多喜高校卒業までの6年間、日々厳しい稽古に明け暮れた。その結果、高校時代には三段を取得。関東大会に出場を果たした。

渡辺正行氏

その後は剣道から離れ、芸能界への道を進む。厳しい浮き沈みの過程で、「へこむ時は大きくへこむ、するとより大きく復活するレベルが高い」という人生訓を学んだ。チョコっとへこむだけでは、チョコっとしか頑張れない。大きくへこんで、もうダメだ、もうできない、と思ったところから開き直ると、すごいパワーが出るようになったという。

▽TV番組をきっかけに剣道を再開

2011年にテレビ番組出演をきっかけに、30余年を経て剣道を再開。翌12年に四段を取得するという企画の中、番組に関係なく、自分のために、自身の剣道向上のためにやろうと奮い立った。多忙なスケジュールの中、自分で道場を探して通い、はじめて日本剣道形を勉強した。剣道界の実態を知らなかったため、審査会場に多くの受験者がいることに驚いたという。そんな会場の雰囲気に圧倒され、審査中は、今までにないプレッシャーで上がってしまった。無我夢中であったが、何とか四段に合格。思わず嬉し泣きをした。

それから剣道に対する姿勢が変わった。色々な道場に通って、多くの先生方に稽古をつけてもらうようになった。

▽大会に出場、勝敗に一喜一憂

さらに姿勢を変えることになったきっかけが、道場の先生に勧められて大会に出場したことだった。はじめは乗り気ではなかった。剣道を再開してから、正式な試合に出たことがなく、ルールもマナーもわからな

ミツボシの剣道防具
ミツボシ

い。番組では、スタッフが大会の段取りをすべてやってくれた。しかし、当たり前なことだが、それもすべて自分で管理をしなければならない。

そして、２０１３年の春、荒川区の剣道大会四段以上Ⅱ部（45歳以上60歳未満の部）に出場。バタバタと気持ちが落ち着かない状態での参加ではあったが、健闘して3回戦まで勝ち進むことができた。さらに、2回戦の相手が、前回優勝者であったことを知らされて自信が湧いた。

1年後、今度は自分から出場を申し出て、２０１４年同大会に出場。

大盛況の講演会

3回戦、鍔迫り合いをしている時の相手の顔が恐かった。先方のものすごい気合いに、気持ちがビビって試合にも負けてしまう。試合は必死な想いでやるものだと思い知らされた。その日のうちに、60歳までに優勝しようと決意。その意識で日々稽古を重ねた。

半年後、同年秋の大会。毎試合必死に、真剣な気持ちで試合を勝ち進み、決勝まで残った。しかし、そこでまた強い相手に当たる。試合中、何もできないまま、負けを喫した。

こんなに強い相手が出てきたら、60歳になるまでに優勝するのは無理だ。そう思ったが心機一転、「大きくへこんだら大きくへこむ、そして大きく上がっていく」という持前の精神に火が点いた。「あの相手に勝とう。立ち向かっていこう。勝てないまでも、自分の剣道ができるようになりたい」。稽古をする時は、常にその相手と試合をするイメージで臨んだ。

▽涙するほどに嬉しかった初優勝

待ちに待った２０１５年春の大会。決勝戦まで勝ち上がり、その相手と対戦。気持ちを集中させ、自分の剣道を作っていくんだと意識しながら試合をした。グッと押してくる相手に、自分は蛇に睨まれた蛙のようになった。しかし、間合を切って、自分の剣道ができるように仕切り直す。自分のペースになってきた時に、思い切って面を放った。面は見事に決まり、一本。続けて、二本目、今度は自分がグッと攻めて思いっ切り面を打ちにいく。この面が決まって二本勝で初優勝を果たした。涙するほどに嬉しかったが、道場の先生に「ガッツポーズはダメだよ」と指導を受けたことを思い出し、試合場できちんと礼をして退場。その後、応援にきてくれた仲間に喜びのあまり手を振ってしまった。もちろん道場の先生から、「喜ぶ時は一人で噛み締めて喜ぶんだよ」と注意を受けて、剣道の礼儀の深さを知った。

そして、2連覇をかけた秋の大会。まさかの1回戦負けとなった。

4日後の「第20回シニア健康スポーツフェスティバルＴＯＫＹＯ」（59歳～64歳の部）では、先の大会を思い出し、一試合一試合手を抜かず、丁寧に丁寧に、大事に大事に試合を進めて、準優勝を飾った。試合は本当に難しいものだと語った。

▽これからも続く剣道人生

今では、剣道が生活の一部となった。剣道をやらないと体調が悪くなるという。剣道をされている周りの先生方は、みんな元気だ。通っている道場の野本京子先生は、78歳で七段に合格した。頑張れば努力は報われるのだと教わり、とても勇気が出た。自分も同じように、剣道の向上を目指してこれからも頑張っていきたい。今後は還暦での五段合格を目指すと決意を述べた。

最後に、「世界剣道選手権大会は、剣道界では盛り上がったが、日本全体ではそうでもないように感じた。剣道の稽古は厳しいが、良い汗がかける。もっと剣道の良さ、深さを知ってもらうために、今後、自分が剣道のためにできることを考え、やっていきたい。また、次の世代をつくっていく子どもたちにも剣道を教えたい。そのために自分の剣道をもっともっと向上できるように頑張っていきます」と述べて、講演を締めくくった。